

## 「意欲的に活動する子どもの育成」

—— 「読むこと」の取り組みを通して ——

### I 研究の内容

#### 1 研究の具体的内容と方法

##### (1) 研究の内容

ア国語科の「読むこと」の授業において、ねらいに即した指導の工夫、さらに子どもたちの考えを引き出す発問や展開の工夫など具体的な指導方法を明らかにしていく。

イ研究授業を通して、課題や成果を共有する。

ウ本校の子どもたちの言語環境を考え、言葉の力をつけていくための具体的手だてを探る。

エ引き続き「話すこと聞くこと」の力の実態を把握し分析する。

##### (2) 研究の方法

ア学校課題に基づき、ねらいをしばった研究授業を年間2回行う。

イ低高ブロックごと、子どもたちの実態を把握し、必要な言語環境を整えていくための具体的手だてを考え、実践していく。

ウ一人一実践とし、互いに授業を見せ合い、学ぶ場を持つ。

エ行事ごとの感想発表の場を設け、「話すこと聞くこと」の力を分析していく。

### 2 研究実践

#### (1) 理論研究

ア「豊かな言語環境づくり」 宇野誠先生（教育センター 研修主事）

#### (2) 授業実践

##### ア研究授業

- ・ 3年生「アリの行列」（渡辺）

内容の読み取りをもとに段落の要点をまとめる。まとめ方を理解し、活用することができる。

- ・ 4年生「アップとルーズで伝える」（三森）

段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読む。対比・まとめなど段落相互の関係に気をつけることで内容を把握しやすくなることを知り、読み方に生かすとともに、伝えたいことと伝える方法について興味を持つこと。

##### イ公開授業

- ・ 1年国語「じどう車くらべ」(野尻)・ 2年国語「スーホの白い馬」(前田)
- ・ 5年国語「ニュース番組づくり」(岡)・ 6年国語「平和の砦を築く」(前島)
- ・ 3年音楽「ふしの特徴を感じ取ろう」(駒田)・ 4年保健指導「不思議発見：かむこと！」(金丸)・ 5年社会「これからの環境を守る」(市川)
- ・ 6年道徳「絶滅の淵を乗り越えて」(武井)

#### ウ言語環境づくりの取り組み

- ・ 「言語環境作り」の取り組みについての検討
- ・ 低学年ブロック  
学年ベスト10読書，読書頑張り賞の表彰，あいさつ合戦，「さん」をつけて友達の名前を呼ぶ など具体的に取り組んだ。
- ・ 高学年ブロック  
場に応じた言葉づかい，読書カードの取り組み，推薦図書，日記作文等による言葉を使う取り組みを行った。
- ・ 個人の取り組み  
職員が個人として目標を持って，言語環境作りに取り組んだ。

## II 成果と課題

### 1 成果

ア研究授業で、「読むこと」の授業を2回行った。より深く教材研究することの大切さ，子ども達の読み取りを授業に生かしていくことの難しさや大切さを学ぶことができた。

イ全員が授業を公開し，率直な意見交換をすることで，自分の授業を見直すことができ，教師力の向上に大変役立った。

ウ言語環境づくりの取り組みをすることで，子ども達の言語環境について常に意識することができた。教科書に載っている図書について学年の必読書にすることで，子ども達の読書の質が上がったり，読書量が増えるきっかけにもなった。

### 2 課題

ア言語環境づくりでは，もう少し話し合う時間を取り，何に取り組むかももう少し絞りこんで，共通認識を持った上で取り組むことが必要。

イ国語だけでなく，他の教科でも言語力を育成して行かなくてはならない。

ウ子ども達の表現力を培っていく必要を感じた。様々な場面で，自分の言葉で自分の考えを言ったり，書いたりする力をつけていきたい。

## III 成果物

- 1 3年生国語「読むこと」学習指導案(教材「アリの行列」)
- 2 4年生国語「読むこと」学習指導案(教材「アップとルーズで伝える」)
- 3 学年ごとの必読書リスト(1～6年)
- 4 必読書完了の賞状
- 5 言語環境づくりの低高ブロックごとの実践カード，及び個人取り組みカード  
(研究主任 前田 文)